

平成 27 年 7 月 17 日

呉竹医療専門学校
校長 細野 昇 殿

学校関係者評価委員会
委員長 河原 保裕

学校関係者評価委員会報告

平成 26 年度自己点検・自己評価報告書について、下記の通り評価結果を報告します。

記

I. 学校関係者評価委員

河原 保裕 (公社 埼玉県鍼灸師会 会長)
高橋 知則 (公社 埼玉県柔道整復師会 理事)
刑部 正道 (在校生 保護者)
福島 聡一郎 (卒業生 呉竹会会長)
竹内 正 (県立松山女子高等学校 教諭)

II. 学校関係者評価委員会の開催状況

平成 27 年 7 月 4 日 (会場 呉竹医療専門学校 10 階 1001 教室)
尚、中間報告については平成 26 年 11 月 22 日実施されている

III. 学校関係者評価委員会報告

評価指数 (4:適切、3:ほぼ適切、2:やや不適切、1:不適切)

評価項目	委員の評価	委員の評価 指数平均
1. 教育理念	資格取得ばかりではなく社会的ニーズを意識した人材育成を教育の目標としてカリキュラムを編成されていることは理解できました。しかしながら社会的ニーズは立場によって異なるものであるため、ぶれることなく今後も目標をしっかり持って取り組んでいただきたい。 また、社会的ニーズは変化するものでもあることを意識され、教育方針等に反映されることを望みます。	4.0
2. 学校運営	人事、給与制度の面で不足していることについて自己点検・評価され、整備に向けて準備を始められています。専門学校における教職員採用にあつては採用年齢にばらつきがあること等は経験上も承知しておりますので、改善への取り組みを評価したいと考えます。	3.4

3. 教育活動	養成施設が少なかったころの退学者数に比べ、非常に多くなっていることに驚きました。入学生の年齢構成や気質の変化について説明を受け、学校の取り組まれている対策について理解しますが、引き続き努力され改善されることを望みます。	4.0
4. 学習成果	学生への就業支援活動に努力されていることが理解できました。示された今後の取り組みに期待します。	3.6
5. 学生支援	学生への経済的支援として専門実践教育訓練の講座指定を掲げていますが、指定を受けていない課程もあることなど、全課程での指定に向けて努力されることを望みます。	3.8
6. 教育環境	初めて取り組まれたインターンシップの実施状況、今後の取り組みについて理解しました。千葉大学や上海中医薬大学での実習など、インターンシップを含め、学内で行えない教育を学生に提供されていることを評価します。	3.6
7. 学生の募集と受け入れ	鍼灸科において定員を充足できない原因が鍼灸マッサージ科との違いを明確に伝えられていないためと分析されています。生徒募集に関する色々な取り組みは理解いたしますが、分析されている鍼灸科の特徴を明確にすることを最優先として取り組まれることを希望します。 競合する学校数が増えたことで、生徒募集が厳しく、そのために学費を下げたり、だれでも入学させるといったことから、教育の質が下がるという悪循環は避けていただくよう要望します。	3.8
8. 財務	学校経営は安定しており、評価します。今後も安定的な財務基盤を確保しつつ、教育環境の一層の充実に向け資力を投じられることを希望します。 附設クリニックは教員研修の場であったり、学生の実習施設として本校の大きな特徴となっています。学校経営を圧迫しないように経営改善の努力を希望します。	3.6
9. 法令等の遵守	学校の取り組みを評価します。	4.0
10. 社会貢献	社会にでるとボランティアに参加する機会が増えます。学校には学生のうちからボランティアに参加する意義や重要性について考える機会を提供していただきたい。	3.6

IV. 総評として

呉竹医療専門学校は新たな高等職業教育を目指し、教職員が一丸となって努力されている熱意を感じます。自己点検・自己評価を積極的に取り組まれ、学校関係者評価委員や教育課程編成委員など外部の意見にも真摯に対応されています。

第三者評価に向けた準備をされているなど、教育の質の向上に向けた努力をされていることを評価いたします。

企業連携や関係業団との連携を推進され、更なる実践的な教育が行われることを期待します。